

みやざき

第10号

発行日 2009年3月23日

発行 宮崎県埋蔵文化財センター

黄泉からのメッセージ

みちかきしよこあなほぐん
朽木地下式横穴墓群

～東諸県郡国富町大字八代北俣～

埋葬された男性の骨
1号地下式横穴墓

朽木地下式横穴墓群は、国富町の中央北部に広がる標高約130mの台地上に位置し、遺跡の周辺は、地下式横穴墓の群集する地域として知られています。

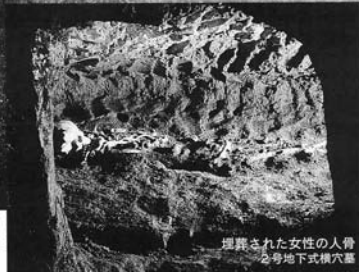
発掘調査は、3基の地下式横穴墓について行い、埋葬された人物の骨や鉄製武器などの副葬品を発見しました。

これら地下式横穴墓の注目すべき点として、まず、1号地下式横穴墓に、葬られていた人物が、うつ伏せに葬られていたことが挙げられます。このような例は他にあまりなく、何か特別な意味があったのか注目されることです。また、3号地下式横穴墓は、唯一玄室の入り口を塞ぐために扁平な川原石が並べられており、地下式横穴墓の構造が、70kmほど南の串間市で見つっているものとよく似ていることから、地域間の関係性も考える必要がありそうです。

※ 地下式横穴墓とは？

古墳時代に造られた南九州特有のお墓のことで、地面に縦方向の穴（竪坑）を掘った後、穴の底から横方向にトンネルを掘って遺体を安置する空間（玄室）を造ります。

地面の下に空洞があるため、昔から天井が落ちて発見されるケースが多く、今回も工事中に天井が落ちて偶然発見されました。

八骨取り上げ後の副葬品出土状況
1号地下式横穴墓埋葬された女性の骨
2号地下式横穴墓竪坑を玄室を塞ぐ石列
3号地下式横穴墓

まゑのたらし

前ノ田村遺跡

～児湯郡川南町大字川南～

前ノ田村遺跡は、町の中央を流れる総貫川の南に位置する丘陵地の先端に立地しています。

狭い調査範囲ながらも、弥生時代後期に利用されていた竪穴住居跡が6軒も発見され、さらに、縄文時代早期の調理施設跡（集石遺構・炉穴）なども見つかっています。

さて、前ノ田村遺跡の立地する丘陵地は、県内でも有数の弥生銀座として知られており、数多くの弥生時代遺跡が発見されています。今後は、前ノ田村遺跡も、弥生銀座の一角を占めることになりそうです。



竪穴住居跡から出土した弥生土器

さんざたいち

銀座第1遺跡（五次）

～児湯郡川南町大字銀座～



縄文時代の落とし穴



板平遺跡（二次）

～日向市大字板平～

しおみじの塩見城跡

～日向市大字塩見～

たわいさいちの依石第1遺跡

～児湯郡豊前大字川北～

じろうざえもん次郎左衛門遺跡

～西都市大字三宅～

もみきちのこまにらほくちの榎木地下式横穴墓群

～児湯郡国富町大字六代北～

たかねついでいづみの高鍋城三ノ丸跡

～児湯郡高鍋町大字上江～



江戸時代の木製品群

ひらみねの平峰遺跡（三次）

～都城市平塚町～

みやづのたいに宮鶴第2遺跡

～南都賀郡北郷町大字郷之原～

どうめぎの動女木遺跡

～都城市五十町～

間仕切りのある竪穴住居跡
弥生時代後期

うめきはりに

梅北針谷遺跡

～都城市梅北町～



梅北針谷遺跡は、都城全地の南端、中世の山城・梅北城の北西に位置しています。

この遺跡では、古代～中世にかけて製鉄を行っていたようで、作業場として利用された製鉄炉を設けた掘立柱の建物跡が見つかっています。さらに、周辺には製鉄の作業中に出た鉄クズが、たくさん散らばっていました。

この作業場で作られた鉄は、各地の鍛冶場に運ばれ、生活道具や武器などに加工されたと考えられます。

古代の製鉄炉跡



鉄クズ

ほりかわらんの堀川運河

～日向市津津～

命 北 革 命

埋蔵文化財センターでは、東九州自動車道の建設に先立って、発掘調査を行っています。昨年度から大分県境である延岡市（旧北浦町及び熊野江町）で本格的に調査が開始されています。

今年度は、6遺跡について発掘調査が行われていますが、旧北浦町周辺での発掘調査はこれ以前には過去数回行われただけで、考古学による歴史資料の蓄積はほとんどありませんでした。しかし、今回の発掘調査によって、縄文時代や古墳時代の大規模な集落跡などを発見するに至り、宮崎県の歴史に新たな1ページを付け加える成果を得ることになりました。

歴史を紡ぐすべての人たちにとって、旧町域における縄文時代から連続と続く人々の息吹は、今後新鮮な驚きをもたらしてくれることでしょう。



六地藏権
カラ石の元遺跡



北浦湾を望む遺跡の立地
総舞島遺跡



宮崎初!! マリア像発見か?!

キリシタン遺物

～日向市中山遺跡出土～

中山遺跡の発掘調査は、平成18～19年度にかけて行われ、中世の山城である垣見城の一部にあたる事が判明しています。

調査終了後の整理作業中、土製品の表面にペールを被った女性の顔（聖母マリアか?）とバラの葉の造形が確認され、キリシタン関係の遺物であることが判明しました。

土製品が作られた時期は、中世の末期～近世の初め頃と考えられ、土製品の中が空洞になっていることから「聖遺物」の容器として、壁や箱の中などにかけて用いられたと考えられます。

※ 聖遺物とは？
カトリックで聖人の遺骨や着衣などの遺物の尊称で、崇敬の対象とされています。



近世鉄肥藩の礎

ほりかわ うんが 堀川運河

～日南市油津～

堀川運河は、鉄肥杉の木材を運搬する目的で、鉄肥藩主伊東祐実が着工を命じ、完成まで2年余りを要して貞享3（1686）年に水路として開設されました。

今回で11回目となる堀川運河の調査は、護岸壁の補強・保護のために昭和30年代頃から施工されたコンクリート壁を取り除く作業から始まります。そして、コンクリート壁除去後に現れてくる石積みの護岸壁について、堀川運河の整備と保存のための基礎資料を得るために実測・写真撮影などを行いました。

現在すでに、遊歩道や広場が、市民の憩いの場として完成しています。運河に掛かる木橋を渡って先人の偉大な業績を感じてみてはいかがでしょうか。



コンクリート壁除去後に現れた石積みの壁

思った以上に大変だあ!

発掘体験!! 君も未来の考古学者だ!!

埋蔵文化財センターでは、教育普及事業の一環として、年に数回の発掘体験を企画しています。

調査の進捗状況によって、体験のできる時期や場所は限られますが、「発掘調査に興味があって、やってみたいんだけど、どこに誰に聞けばよいのやら」と思っていた方は、当センターに一度ご相談下さい。もしかすると、みなさんの家の近くで発掘調査が行われているかも知れませんよ。



都城市梅北針谷遺跡にて

埋蔵文化財センターでは、これまでにたくさんの遺跡の発掘調査を行ってきました。そんな遺跡や発見された遺物器を紹介するため、出前講座やミニ巡回展を開催して皆さんに喜んでいただいています。学校や地域の歴史講座などで本物に触れてみてはいかがでしょうか。詳しくはホームページなどをご覧いただき、お気軽にご相談下さい。

埋蔵文化財通信 みやざき 第10号

発行日 2009年3月23日

編集・発行 宮崎県埋蔵文化財センター

本館 〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地

TEL (0985) 36-1171 FAX (0985) 72-0660

分館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番地4号

TEL (0985) 21-1600 FAX (0985) 26-2634

ホームページ <http://www.miyazaki-archive.jp/maibun/index.html>